

照らし合うものVol.2

ウェーベルンという惑星

アントン・ウェーベルン

Anton Webern (1883~1945)

6つの歌曲 Op.14 (1917-1921)

6 Lieder op.14

2つの歌曲 Op.19 (1926)

2 Lieder op.19

3つの歌曲 Op.25 (1934)

3 Lieder op.25

6つのバガテル Op.9 (1911)

6 Bagatellen op.9

ピアノのための変奏曲 Op.27 (1936)

Variationen für Klavier op.27

ヨハネス・オケゲム:

レクイエム〜死者のためのミサ曲〜より (1461?)

I: 入祭唄 II: あわれみの賛歌 III: 昇階唄

Johannes Ockeghem: Requiem -Missa pro Defunctis

I: Introitus II: Kyrie III: Graduale

ピーター・マックスウェル・デイヴィス: テブレ・スーパー・

ジェズアルド (1972)

Peter Maxwell Davis: Tenebrae Super Gesualdo

ハリソン・バートウィッスル: 孤独な隠者のように (1969)

Harrison Birtwistle: Ut heremita solus

ジョン・ケージ: ファイブ (1988)

John Cage: Five

アレハンドロ・ビニャオ: 衝突と瞬間 (2002-2005)

Alejandro Viñao: Colisión y Momento

エリック・マエストリ: エレキギターと弦楽三重奏のためのBLU (2016) ~世界初演

Eric Maestri: BLU for Electric-Guitar, Violin, Viola and Cello ~World Premiere

小出稚子: 惑星連絡船 (2016) ~世界初演

Noriko Koide: Planet Ferry ~World Premiere

ソフィア・グバイドゥーリナ: ホケット風に (1984/2008)

Sofia Gubaidulina: Quasi Hoquetus

2016
10/22 Sat

東京オペラシティ リサイタルホール

15:30開場 16:00開演

出演者

Ensemble NOMAD

木ノ脇道元 (fl)

菊地秀夫 (cl)

野口千代光・花田和加子 (vn)

甲斐史子 (va)

佐藤洋嗣 (cb)

中川賢一 (cond/pf)

稲垣 聡 (pf)

宮本典子 (perc)

佐藤紀雄 (cond/gt)

Guests

太田真紀 (sop)

アンサンブル小瑠璃 (chor)

西尾郁子 (cl)

松本卓以 (vo)

チケット (就学前のお子様の同伴・ご来場はご遠慮下さい)

【前売】一般 ¥3,000

大学生 ¥2,000

高校生以下 ¥1,000

【当日】一般 ¥3,500

大学生 ¥2,500

高校生以下 ¥1,500

チケット取り扱い

お問い合わせ

東京オペラシティチケットセンター
Tel: 03-5353-9999

キーノート Tel: 0422-44-1165
keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp

主催/アンサンブル・ノマド

<http://www.ensemble-nomad.com/>

助成/アーツカウンシル東京

(公益財団法人東京都歴史文化財団)



公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

公益財団法人 朝日新聞文化財団

アンサンブル・ノマド 第56回定期演奏会

照らし合うものVol.2

ウェーベルンという惑星

ウェーベルン、その小さな名前のなかに無限の音楽の惑星の照応が輝く。
全てはそこから発し、そこに還ってゆくかのように。

その囁きに似た極小の作品は音楽の未来を指し示しただけでなく、
過去の音楽を新しい光で照らした。

1つのプログラムの中で、ウェーベルンという鏡に様々な種類の音楽や
音響を映してみたいと思った。

佐藤紀雄

Ensemble NOMAD

photo by Akitoshi Higashi



#57出演メンバー:木ノ脇道元(fl) 菊地秀夫(cl) 野口千代光・花田和加子(vn) 甲斐史子(va)
佐藤洋嗣(cb) 中川賢一(cond/pf) 稲垣 聡(pf) 宮本典子(perc)
佐藤紀雄(cond/gt)

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年に行った定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は大きな反響をよび、サントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」を、2015年に行った定期演奏会「再生へVol. 3:祈り〜エストニアから震災復興を祈るコンサート」により「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞した。海外からの招待も多く、2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」、2005年11月パリで行われた「フェスティバル・アテンポ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また2008年10月にはソウルでの「バン・ムジーク・フェスティヴァル」などに出演。2009年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行ない、好評を博した。2011年には2度目の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニアとオランダで公演を開催。2014年にはメキシコのセルバンティーノ音楽祭に日本を代表するアンサンブルの1つとして招聘された。2015年12月には再び中国四川公演を行ったほか、今後もスイスやフィンランド、ドイツなどでの公演を予定している。

また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪問コンサートやワークショップを行なっている。

CDは、近藤 譲「梶子」(ALCD-47)、「空の眺め」(ALCD-57)、「オリエント・オリエンテーション」(ALCD-67)、「表面・奥行き・色彩」(ALCD-93)、石田秀実「神聖な杜の湿り気を運ぶもの」(ALCD-60)、池辺晋一郎「炎の資格」(CMCD-28121)、福士則夫「花降る森」(CMCD-28128)が発売されている。海外ではエバルト・バスケスの「Bestiario (動物寓話集)」が2011年に、2015年に「Pruebas de vida (生命の証)」がリリースされている。2014年にはオリジナル・アルバム「巡る—Meguru」をリリース。昨年夏から秋にリリースされた「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。
公式ウェブサイト: www.ensemble-nomad.com/

Guests



太田真紀 (sop)



西尾郁子 (cl)



松本卓以 (vc)

アンサンブル小瑠璃



福崎美苗 (sop)



澤江衣里 (sop)



村元彩夏 (sop)



青木洋也 (alt)



布施奈緒子 (alt)



石川洋人 (ten)



藤井大輔 (bar)



山本悠尋 (bar)

東京オペラシティ リサイタルホール



東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティB1F
Tel: 03-5353-0788
京王新線「初台駅」東口下車徒歩3分